

目指す学校像	「古くて新しい植竹中の創造」～わかる授業 明るい学級 夢を育む学校～
--------	------------------------------------

重点目標	1 生徒の能力を引き出し、内容の定着を図る「わかる・できる」授業の展開 2 安全・安心で豊かな学校づくりの推進・整備 3 地域に根ざし、信頼される学校づくり（コミュニティスクール）の推進 4 働き方改革を踏まえた、チーム「うえたけ」のバージョンアップ
------	--

※重点目標は4つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目は複数設定可。
 ※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度	A	ほぼ達成 (8割以上)
	B	概ね達成 (6割以上)
	C	変化の兆し (4割以上)
	D	不十分 (4割未満)

学校自己評価							学校運営協議会による評価	
年度目標					年度評価		実施日令和 年 月 日	
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	学校運営協議会からの意見・要望・評価等
1	学力向上に関する取り組み (現状) ○全国学力・学習状況調査では、全国平均よりポイントが国語(6.2)、数学(10)、英語(11.4)上まっている。 ○中学校入学段階で、基礎学力の定着状況に大きな個人差がみられる。 ○端末の活用状況は、昨年12月段階で「週3回以上」の生徒が80.6%(市平均75.1%)である (課題) ○学習において小学校との連携を進める上で、本年度も継続して、合同研修会の開催内容及び情報の共有化を行う必要がある。 ○大規模校のため、通信環境が悪く、学年全体や全校生徒が一斉にタブレットを使うことができない。また修繕にかかる日数が長い。	・情報端末の活用と学びの自律化における授業改善 ・ICT機器の利用方法を生かした学力の向上	①小・中合同研修会を6月に開催し、各教科でタブレット活用研修の実施。 ②6年生対象のチャレンジテストを実施。その結果を中学校側が分析し、小・中合同で共有化を図り、課題を明確にする。	①教職員の研修後の肯定的な回答の割合が80%以上となったか。 ②小学校教員に対してのアンケートにおいて、肯定的な回答の割合が80%以上となったか。				
2	安心・安全に関する取り組み (現状) ○学校評価アンケートにて、「避難訓練や授業等により、安全面について、意識が高まっていますか」の質問に対して、生徒の肯定的な回答が93%と高い数値が出ている。 ○「So-la る一む」を設置し、教室に入れない生徒の学びの場として活用している。 ○教職員、生徒の事故防止のための取り組みが進められている。 (課題) ○特別教室棟(理科室・技術室・調理室)の老朽化が進み、改築が必要である。 ○「So-la る一む」を次へのステップアップをする場としての工夫、改善が必要である。 ○大規模校としての特別教室の改築は喫緊の課題である。 ○教職員、生徒の安全に対する意識と技術をさらに高めしていく必要がある。	・一人ひとりの生徒に対する細やかな教育支援に対応した行内体制の充実 ・学校施設の改修計画の策定 ・安全、安心な学校づくりの推進	①避難訓練等を通じて、目的を明確にし、自助・共助の意識付けを進めている。 ②生徒指導、教育相談委員会での個人データを蓄積できるファイルをエバンジェリストが作成し、3年間を通して支援ができる体制づくりを進める。 ③学習室利用の生徒に対する学びの補償としてSAの配置、安全管理として地域のボランティア人材の活用をさらに進める。	①個人データファイルの作成ができたか。 ②So-la る一む利用生徒、保護者のアンケートにおいて、肯定的な回答の割合が70%以上となったか。 ③地域ボランティアとの情報交換打ち合わせを学期に最低1回開催できたか。				
3	地域とともにある学校づくりに関する取組 (現状) ○全国学力・学習状況調査において「地域の行事に参加していますか」の質問に対し、全国平均が10.2ポイント下回っている。 (課題) ○部活動が盛んなため、なかなか地域行事に参加できない状況にある。 ○学校支援組織(PTA・後援会)明確にし、地域の協力も得られる体制づくりに移行していく必要がある。	・自校文化における魅力発信及び開かれた学校づくりの推進 ・PTA、後援会、地域との密接な関係づくりの構築	①コミュニティスクールとして、積極的に生徒の地域行事参加を募り「地域の一員」としての誇りを持たせる。 ②学校環境整備ボランティア(旧親父の会)を募り校内環境の整備を推進する。 ③PTAと後援会の組織、充実を図り、生徒の安全及び生徒の活躍の奨励、広報活動を強化し、地域に発信するとともに協力体制を強化する。	①学校評価アンケートにおいて保護者、生徒の肯定的な回答の割合が85%以上となったか。 ②地域行事参加生徒が、延べ300人以上となったか。				
4	教職員の資質向上に関する取組 (現状) ○ICT活用に関する研修会をエバンジェリストを中心に進めている。 ○ストレスチェックの結果は良好だが、「負担や多忙感を感じている割合が90%と高い。(市平均88.3%) (課題) ○ICTの活用についての教員間、教科間の差が大きい。 ○経験値の差から、部活動、校務分掌や学年分掌の力量に偏りがみられる。	・働き方改革を踏まえた居心地の良い、チーム「うえたけ」のバージョンアップ	①情報端末やアプリの効果的活用方法についての研修会を定期的に進める。 ②自己評価シートにおける行動プロセス評価の視点を理解し、キャリアnaviを活用し、教員個々の資質向上指標に取り組む。また、全国教員研修プラットフォームを活用し、資質向上を図る。 ③スポーツを科学する取り組みから、部活動の効果的な指導法の工夫・改善を図る。	①すべての教員が、自らの目標に向けての研修に取り組み、結果として90%以上の教員が目標達成を実感することができたか。 ②自己評価シートにおける行動プロセス評価のB評価の割合が90%以上となったか。 ③該当部活動の満足度が90%以上となったか。				